

遮光フィルムを用いたネギの軟白栽培

中島 治・山本平三¹⁾・豆田和浩²⁾

(佐賀県農業試験研究センター三瀬分場¹⁾佐賀県農業大学校²⁾佐賀県農業試験研究センター)

Osamu NAKAJIMA, Heizou YAMAMOTO and Kazuhiro MAMEDA :
Blanching cultivation of welsh onion using shading films

葉しょう部を食べるネギの軟白方法は土寄せが一般的であるが、遮光フィルムを利用する軟白栽培では、ネギの軟白部が従来の露地土寄せ栽培よりも15cm以上長くなり、甘味があるなど外観、品質に優れており、土寄せ作業も省力できる。そこで、この栽培法を用いて、西南団地の雨よけハウスにおける栽培技術を検討した。

1. 材料および方法

試験1：品種の選定

春まき秋どり、夏まき冬どり、秋まき春どり、冬まき夏どりの4作型に分けて、各作型で数品種を供試し、収穫時の生育状況を調査した。

試験2：畦面マルチ資材の選定

試験1と同様4作型に分けて、各作型で透明、黒、グリーン、白黒ダブル、シルバーの5種類のマルチを供試し、収穫時の生育状況を調査した。

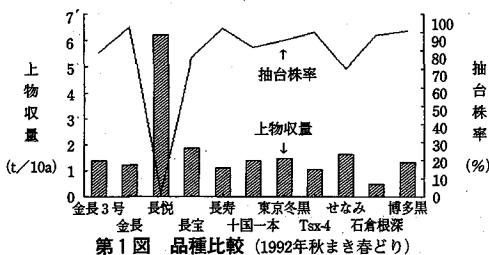
試験3：施肥量、かん水量の検討

施肥量を10a当たり窒素成分で20, 30, 40kg(全量元肥)、かん水量を1回当たり5, 10, 15mmとし、各々を組み合わせる9区を設け、春まき秋どりを除く3作型における収穫時の生育状況、葉しょう部の品質を調査した。

第1表 作型別適品種 (1992~1993年)

作型 (品種数)	適品種名	総合評価	分けつ	上物株率	上物収量
春まき 秋どり (26品種)	金長3号	◎	少	高	極多
	金長	◎	少	高	極多
	明彦	◎	少	高	極多
	長宝	○	極少	中	多
	石倉一本	○	極少	中	中
夏まき 冬どり (26品種)	霜耐	◎	極少	極高	極多
	TY-83	◎	極少	極高	極多
	金長	○	極少	高	多
	東京冬黒一本	○	少	高	多
	石倉一本	○	無	極高	多
秋まき 春どり (11品種)	長悦	◎	無	極高	極多
冬まき 夏どり (11品種)	十国一本太	◎	少	極高	極多
	長宝	○	無	極高	多
	せなみ	○	少	高	多

注) a) ◎: 特に有望 ○: 有望



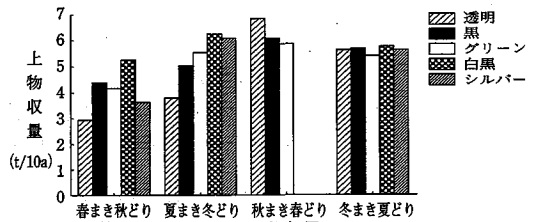
第1図 品種比較 (1992年秋まき春どり)

2. 結果および考察

試験1：第1表に各作型における適品種を示した。春まき秋どりでは、生育が旺盛となり分けつした株が多かった。適品種は分けつ株が少なく、上物収量の多い「金長3号」「金長」「明彦」「長宝」「石倉一本」であった。夏まき冬どりにおける適品種は、軟白部の形状が特に優れ、上物率の高い「霜耐」「TY-83」「金長」「東京冬黒一本太」「石倉一本」であった。秋まき春どりでは、収穫が抽台期と重なるため、ほとんどの品種が抽台し、著しく減収した。したがって、適品種は晩抽性でほとんど抽台のみられなかった「長悦」であった(第1図)。冬まき夏どりにおける適品種は、上物収量の多い「十国一本太」「長宝」「せなみ」であった。

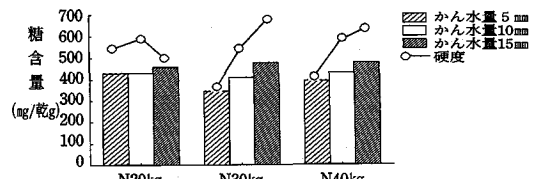
試験2：第2図に各作型における上物収量を示した。春まき秋どりでは、期間を通じて高温であるため、地温の上昇を抑制する効果が高く、上物収量の多くなる白黒ダブルマルチが適していた。夏まき冬どりでは、定植から軟白開始までが高温期であることから、地温の上昇を抑制する効果のある白黒ダブルマルチおよびシルバーマルチが適していた。秋まき春どりでは、期間を通じて低温であるため、地温の上昇効果のある透明マルチが適していた。冬まき夏どりでは、マルチの種類による生育差は認められなかった。

試験3：いずれの作型でも施肥量は10a当たり窒素成分で20~30kgが適していた。また、かん水量が多いほど成育が旺盛で多収となり、硬度、糖含量も増加することが明らかとなった(第3図)。



第2図 マルチ別上物収量 (1992~1993年)

注) 秋まき春どりにおいては透明、黒、グリーンのみ



第3図 施肥量、かん水量の違いによる硬度および糖含量 (1994年冬まき夏どり)

注) a) 硬度=最大荷重(クリップメーター測定)
b) 糖含量=葉しょう部の全糖含量